

臨床看護師のビリーフに関する研究

木村 緑 三浦 広美

要旨

本研究は臨床看護師のビリーフを明らかにすることを目的とし、病院に勤務する臨床看護師に質問紙調査を行った。

その結果、最も出現回数の多い語は「患者」の39回であった。次いで「冷静」24回、「優しい」17回、「人」14回という結果であった。

共起ネットワークにおけるビリーフに関わる基本構造では、①「患者」「理解」「中心」「考える」「良い」「ケア」「行う」②「人」「全て」「優しい」「思いやり」「対応」「持つ」③「判断」「正しい」「物事」「状況」④「寄り添う」「存在」「助ける」「気持ち」⑤「援助」「医療」「受ける」⑥「冷静」「沈着」の6つのサブグラフが形成された。

これらの結果より臨床看護師のビリーフは、【患者を中心とした看護】【冷静な対応】【優しさ】【すべての人を看護対象とする】【物事に対する正しい状況判断】が臨床看護師のビリーフであることが推測された。

キーワード：臨床看護師、ビリーフ、テキストマイニング

1. はじめに

看護は実践の歴史が長く学問に先立つため、実践の学とされてきた¹⁾。看護実践の基盤には、自己認識や倫理観などが含まれており、それに影響を及ぼしているのが心的態度であるビリーフである。

ビリーフとは信条や信念²⁾を指し、看護師にとってのビリーフは職場における物事を決定するときの判断基準となる。そして、ビリーフには合理的なビリーフと非合理的なビリーフ³⁾がある。たとえ合理的なビリーフであっても、そのビリーフが強すぎる場合は本人のメンタルヘルスの悪化や他者に対する批判につながり、人間関係の悪化の要因となる場合がある。

看護師のビリーフの研究については、非合理的なビリーフに焦点を当てた研究が多くさ

れている。非合理的なビリーフはアーロンベックが提唱した認知のゆがみにも関連するメンタルヘルス上の重要な概念である。

しかし近年、看護師の業務の多様化や職務の複雑化など看護師を取り巻く環境は大きく変化している。厚生労働省では、臨床看護師について、あらゆる医療現場において、診察・治療等に関連する業務から患者の療養生活の支援に至るまで幅広い業務を担い得ることから、いわば「チーム医療のキーパーソン」として患者や医師その他の医療スタッフから寄せられる期待は大きい⁴⁾とし、看護師をチーム医療の中心ととらえている。このように看護師の役割が変化していることに伴い、臨床看護師のビリーフもまた変化している可能性が考えられる。

そのため本研究では臨床看護師の持つビリー

ーフを明らかにする事を目的とする。

臨床看護師のビリーフを明らかにする事は、看護師のメンタルヘルスやマネジメントの基礎資料となることが期待できる。

II. 研究目的

本研究の目的は臨床看護師のビリーフを明らかにする事である。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

質問紙調査による質的帰納法

2. 研究対象者

A 県における臨床看護師

3. 調査方法

自記式質問紙調査を実施した。対象者に研究の趣旨、倫理的配慮について文書および口頭で説明した後、質問紙を配布し郵送にて回収を行った。回収した質問紙は施錠可能な場所で保管した。調査期間は2020 年7月～ 2020 年12月であった。

4. 調査内容

質問内容は看護師としての自分が考えるビリーフについて、思いつくものすべてを自由記述してもらった。

5. 分析方法

フリーソフトウェア KH Coder ver2.00f を使用し、計量テキスト分析を行った。

計量テキスト分析とは、計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析を行う方法である。⁵⁾

その中で、品詞の出現頻出度を明らかにする頻度分析、語のつながりを探る共起ネットワーク分析を行った。

6. 倫理的配慮

研究対象者に調査の趣旨、匿名性、参加同意の自由、協力拒否の自由、協力撤回について、文書および口頭で説明し、回答の提出をもって同意したと判断した。

本研究は八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得た (No.20-05)。

IV. 結果

回答者 217 名のうち記述のあった 182 名 (有効回答率 83.8%) を分析対象とした。

1. 全体的傾向

分析対象の総抽出語数は 1,233 語であった。そのうち分析に用いられたのは、257 語であった。出現回数が 3 回以上ある語で名詞、サ変名詞、形容動詞、形容詞について多い順にリストアップした (表 1)。

動詞については素データの分析において「する」が 47 回、「持つ」が 31 回と出現回数が多い語があったが、共起ネットワークを作成する際に「動詞」が強調されるものとなり、看護師のビリーフを明らかにする上で異なる形状となることが予測されたため分析から除外した。

最も出現回数の多い語は「患者」の 39 回であった。次いで「冷静」24 回、「優しい」17 回、「人」14 回、という結果であった。

表 1. 抽出語と出現数

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
患者	39	判断	10	冷静	24	優しい	17
人	14	理解	8	誠実	9	良い	8
感情	9	行動	6	公平	7	正しい	5
笑顔	9	自覚	6	健康	5	明るい	3
自分	8	協調	5	大切	4		
相手	8	向上	5	平等	4		
責任	6	対応	5	穏やか	3		
ケア	5	コントロール	4				
思いやり	5	意見	4				
心	5	援助	4				
専門	4	協力	4				
知識	4	仕事	4				
コミュニケーション	3	沈着	4				
気持ち	3	学習	3				
向上心	3	接	3				
職場	3	話	3				
人間	3						
他人	3						
中心	3						
立場	3						

2. コードの共起ネットワーク

コードの共起ネットワークを図1に示した。共起ネットワークは、Jaccard 係数を算出する。

Jaccard 係数とは、集合の類似度を表す指標で、テキストマイニングでは、文章と文章の類似度、すなわち距離を表す指標となる。具体的には 2 つの語において少なくとも、どちらかが含まれる文章を数えて 2 つの語あるいは両方が含まれる文章の割合を計算する。割合が大きければ、2 つの語はテキストデータセットの中において「近い」と判断される。

自動的にグループ分け（以下サブグラフと表す）を行なった際、同じサブグラフに含まれる語は実線で結んでいるのに対して、異なるサブグラフに含まれる語は破線で結ばれる。

異なるサブグラフだが破線で結ばれている語について素データを確認すると、結びついた文章となっているため、サブグラフの構造を分析するとともに、複数の破線でつながれている語についてはカギとなる語である場合が多いと考えられるため、破線を多く出している語についても考察していくこととした。

また、共起ネットワークにおいて出現する円が大きいほど抽出語の頻出数が大きい事となるため、そこについても着目することとした。

本研究におけるビリーフに関わる基本構造として 6 つのサブグラフが形成された。①「患者」「理解」「中心」「考える」「良い」「ケア」「行う」②「人」「全て」「優しい」「思いやり」「対応」「持つ」③「判断」「正しい」「物事」「状況」④「寄り添う」「存在」「助ける」「気持ち」⑤「援助」「医療」「受ける」⑥「冷静」「沈着」に分類された。

「患者」という語については破線を介してサブグラフ⑤「援助」「医療」「受ける」のすべての語とつながっていることからサブグラフ⑤は独立でありながらも「患者」という語に付随する語で形成されたサブグループととらえる事ができた。また、「患者」はサブグループ②の語である「優しい」、サブグループ④の「存在」とも関連していた。

⑥のサブグループは他の語とつながることなく独立であった。

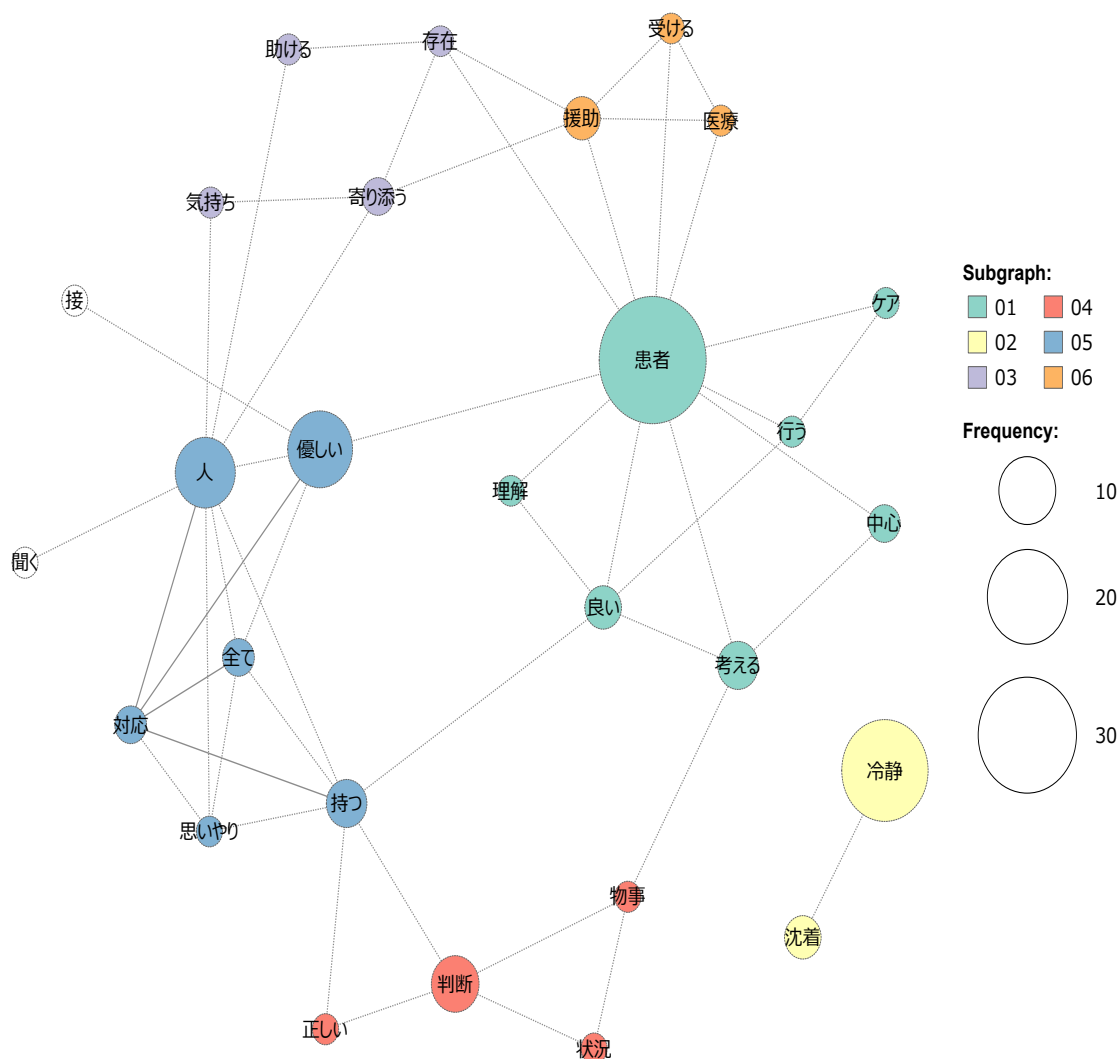


図 1. コードの共起ネットワーク

V. 考察

「患者」という語については、共起ネットワークにおいてサブグラフ⑤の「援助」「医療」「受ける」という語すべてと、サブグラフ②の「優しい」、サブグラフ④の「存在」と破線でつながっており、最も出現回数が多い語であることから「患者」は臨床看護師のビリーフの中心となることが推測された。

看護の概念的定義は、人々の生活の中で営まれるケア、すなわち家庭や近隣における乳幼児、傷病者、高齢者や虚弱者等への世話等を含むものをいう。また看護の機能は、対象者の

苦痛を緩和し、ニーズを満たすことを目指して、看護職が直接的に対象者を保護し支援することとされており、これは保健師助産師看護師法第5条の「療養上の世話」⁶⁾に相当する。

臨床看護師にとっての「患者」は、看護の概念的定義に挙げられる対象者の中で最も重視すべき存在として認識しており、【患者を中心とした看護】が臨床看護師のビリーフの中心となっていることが推測される。

次に出現回数の多い「冷静」についてだが、共起ネットワークにおいては他のサブグラフ

とつながりを持たず独立となっており「沈着」のみと実線で結ばれていた。素データを確認してみると「冷静沈着」あるいは「冷静」という語が確認された。医療現場は患者の急変など予期せぬことが度々起こる。また患者や家族は病や障害に直面化することで心理的に危機的状況に陥っている場合がある。そのような職場で看護師は「冷静」に物事を受けとめ、行動していく必要がある。永野らの研究によると、看護師は多忙な時も患者の要請には必ず応じる、暴言や暴力、不満の訴えにも冷静に対応するなどの倫理的行動をとっている⁷⁾ことを報告している。【冷静な対応】は看護師が業務をしていく上で必要であり、看護師が常に自身に言い聞かせている職務上の構えであることが推測される。

「優しい」については「人」と実線で結ばれており同じサブグラフ②に分類されている。それとともに「患者」とも破線で結ばれていることから、人に対する態度としての看護師のビリーフと推測される。「優しさ」とは患者から見たよい看護師の特性や、患者が看護師を認知する際に重要視する要因としてあげられ、病院の機能分化が進み入院期間が短縮化し、看護師が長い経過の中で時間をかけて患者と関係性を築くことが難しくなった近年においても、「優しさ」を望む患者の声は普遍である⁸⁾。また、サブグラフを見ると「人」「すべて」「対応」といった語と実線で結ばれていることから、看護師のビリーフとしての【優しさ】は患者のみならず、すべての人に対する態度として認識していることが推測される。

「人」については前述した「優しさ」と同じサブグラフ②に分類されているとともに、サブグラフ④の「寄り添う」「助ける」「気持ち」と破線でつながれていた。「患者」という語は病院内での狭義の看護対象であるのに対して「人」「すべて」の語は看護の概念的定義で挙げられている、人々の生活の中で営まれるケア、すなわち家庭や近隣における乳幼児、傷病

者、高齢者や虚弱者等への世話等を含むものであり、臨床看護師にとってのビリーフは病院内の「患者」に関する事とともに、【すべての人を看護対象とする】というビリーフを持ち合わせていることが推測される。

サブグループ③「判断」「正しい」「物事」「状況」については、看護の臨床能力の卓越性に関するビリーフと推測される。臨床看護師は複数の患者を受け持ちもちながら限られた時間の中で業務の優先度を考えつつ、多重の課題に即応できる判断能力が求められている⁹⁾。

また、先述したように厚生労働省では、看護師を、「チーム医療のキーパーソン」と位置づけ、優れた判断力や技術を有する看護師の活躍が必要不可欠となっているとしている。

臨床看護師にとって【物事に対する正しい判断】は業務におけるエキスパートな視点としてのビリーフであると推測される。

VI. おわりに

本研究は、臨床看護師のビリーフを明らかにする事を目的として調査を行った。その結果、臨床看護師のビリーフを表す語として「患者」「冷静」「優しい」「人」が抽出された。また共起ネットワークの分析により【患者を中心とした看護】【冷静な対応】【優しさ】【すべての人を看護対象とする】【物事に対する正しい状況判断】が臨床看護師のビリーフであることが推測された。

謝辞

本研究に協力してくださった臨床看護師の皆様は心より感謝申し上げます。

研究助成情報

本研究は、2020年度八戸学院大学特別研究補助金の助成を受けたものである。利益相反(COI)に関する開示事項はない。

引用参考文献

- 1) 看護にかかわる主要な用語の解説—概念的定義・歴史的変遷・社会的文脈—. 社団法人日本看護協会：2007.
- 2) ライフサイエンス辞書. <https://lsd-project.jp/>. 2021/1/21 閲覧.
- 3) アルバートエリス. 國分 康孝訳どんなことがあっても自分をみじめにしないためには—論理療法のすすめ—. 川島書店：1996.
- 4) チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会 報告書）. 厚生労働省：2010年3月19日 .
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf>. 2021/1/21 閲覧.
- 5) 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析. ナカニシヤ出版：2020.
- 6) 保健師助産師看護師法(昭和 23 年 07 月 30 日法律第 203 号). 厚生労働省.
https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=80078000&dataType=0&pageNo=1. 2021/1/21 閲覧.
- 7) 永野光子. 舟島なをみ. 鹿島嘉佐音：病院に勤務する看護師の倫理的行動の研究. 看護教育学研究：Vol. 24, No2. 12-13, 2015.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasne/24/2/24_KJ00010096012/_pdf. 2021/1/21 閲覧.
- 8) 笠松由佳. 井部俊子：患者が認知する「やさしさ」を成立させる看護の構造化. 日本看護科学学会学術集会講演集：2 巻. 373, 2009.
<http://hdl.handle.net/10285/1368>. 2021/1/21 閲覧.
- 9) 藤内美保. 宮腰由紀子：看護師の臨床判断に関する文献的研究—臨床判断の要素および熟練度の特徴—. 日本職業・災害医学学会会誌：第 53 回第 4 号. 213-219, 2005.
- 10) 有菌智美：基本動詞「持つ」の多義分析. 名古屋学院大学論集 言語・文化篇：28-2. 71-92, 2017. <http://doi.org/10.15012/00000915> 2021/1/21 閲覧.

- 11) 野口恭子. 稲木康一郎. 荻野佳代子. 他：看護師の不合理な信念を測定する質問紙の開発. 日本心理学会第 71 回大会：2007.
https://doi.org/10.4992/pac.jpa.71.0_2A030. 2021/1/26 閲覧.

執筆者紹介（所属）

木村 緑 八戸学院大学 看護学科 准教授
三浦 広美 八戸学院大学 看護学科 講師